

磐田市

桶ヶ谷沼 ビジターセンター



第233号 2023年10月号

だより

開館時間: 午前9時～午後5時 (月曜日 休館)

住所: 〒438-0016 磐田市岩井 315 番地

電話: 0538-39-3022 FAX: 0538-39-3023



あき 秋・・・桶ヶ谷沼はアカトンボでにぎわいます

10月になり、桶ヶ谷沼に秋がやってきました。桶ヶ谷沼ではチョウトンボやショウジョウトンボなどの夏のトンボにかわって秋のトンボである、アキアカネやヒメアカネなどのアカトンボが増えています。一般的には、ウスバキトンボやショウジョウトンボなども含めて、赤やオレンジ色をしたトンボのことをアカトンボと呼んでいますが、正式にはアカトンボの仲間は「トンボ科アカネ属」に属するトンボのことを指します。日本では21種類が確認されており、そのうち12種類が桶ヶ谷沼で確認されています。実はアカネ属に属するトンボの中にはナニワトンボという赤くなく水色をしたトンボもありますが、残念ながらナニワトンボは桶ヶ谷沼では確認されていません。

ぜひ、枝や竹竿の先にとまる桶ヶ谷沼のアカトンボたちに会いに来ませんか。



アキアカネ



ナツアカネ



ヒメアカネ



シメトンボ



コシメトンボ



ミヤマアカネ



マイコアカネ



ムタテアカネ



ナニワトンボ

どうよう かし 童謡「赤とんぼ」の歌詞について



- 1番：「夕焼け小焼けの赤とんぼ
おわれてみたのは いつの日か」
- 2番：「山の畑の桑の実を
小かごに摘んだは まぼろしか」
- 3番：「十五で姐やは嫁に行き
お里の便りも 絶え果てた」
- 4番：「夕焼け小焼けの赤とんぼ
とまっているよ 竿の先」

童謡「赤とんぼ」は、作詞をした三木露風自身の幼少時代の実体験をそのまま歌詞にしたものだとされています。

1番は、姐やに背負われて、夕焼け空を背景にして群れを成して飛んでいる赤とんぼを見た記憶を、4番は、夕焼け空のもとで、竹竿の先にとまっている赤とんぼを見た記憶をそれぞれ歌詞にしたものだとされています。

実は、1番に出てくる群れを成して飛ぶ赤いとんぼはアカネ属ではない「ウスバキトンボ」で、4番に出てくる竿の先にとまっている赤いとんぼはアカネ属の「アキアカネ」ではないかと言われています。両方とも赤っぽい色をしていますので、「赤とんぼ」として歌詞にしたものと考えられています。

なお、三木露風は5歳の時に両親が離婚して父親に引き取られました。歌詞に出てくる姐やは母親の実家の近くの娘で、母親が露風のことを不憫に思い、子守の奉公として露風のところにやってきたのですが、15歳で嫁に行ってしまったため、姐やから聞いていた母親の便り（ようす）が聞けなくなってしまうという悲しかった思い出が3番に込められています。



ウスバキトンボ

たび 旅をするトンボ、アキアカネ

秋、アキアカネは、主に田んぼに産卵します。冬の間は、田んぼが乾いていても卵のまま冬を越します。そして春になり、田植えで田んぼに水が入った頃、卵からヤゴが孵化します。その後10回以上脱皮をくりかえして成長し、6月中旬から7月初めごろ羽化します。アキアカネは暑さが苦手なため、梅雨が明ける頃1000m以上の高地まで移動します。その後、涼しくなった秋に再び平地に戻ってきて交尾・産卵をします。桶ヶ谷沼ビジターセンターではアキアカネの移動を調査するため、毎年8月の中旬に「天竜の森」に出かけアキアカネの頭数と移動経路を調べるため、マーキング調査（翅に採取日、採取場所、採取した人を記入）を行っています。近年は温暖化の影響なのか、アキアカネが桶ヶ谷沼に戻ってくるのが遅く10月下旬になっています。

なお、他のアカトンボはあまり遠くまで移動せずに森や林で夏を過ごします。



アキアカネ(メス)



アキアカネ(オス)



マーキングのようす